

< 参考資料 >

2017年8月10日

東京電力ホールディングス株式会社

福島第一原子力発電所 サブドレンNo.51水位低下に関する メカニズム（推定原因）について

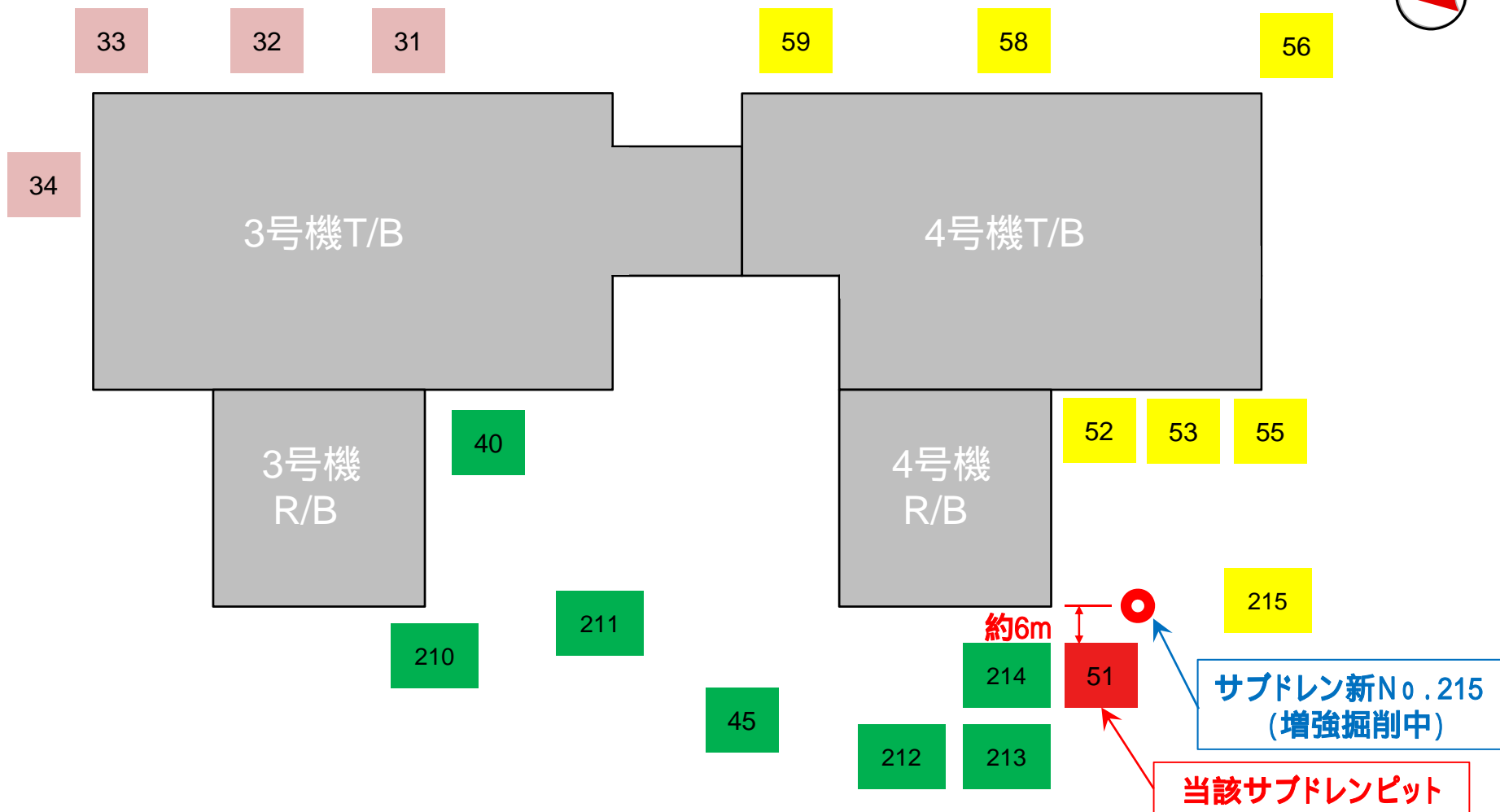
< 概要 >

8月2日にサブドレンNo.51において一時的な水位低下が発生した。

同時間帯に、建屋内地下水流入量低減対策の強化に向けて、近傍でサブドレン増強（No.215）のための掘削作業を行っていた。

水位の変動と掘削作業の時間から、サブドレンNo.51と新No.215が地中で連通していることが原因として推定された。そのため、2つの当該サブドレンにて8月10日に連通性確認試験を実施する。

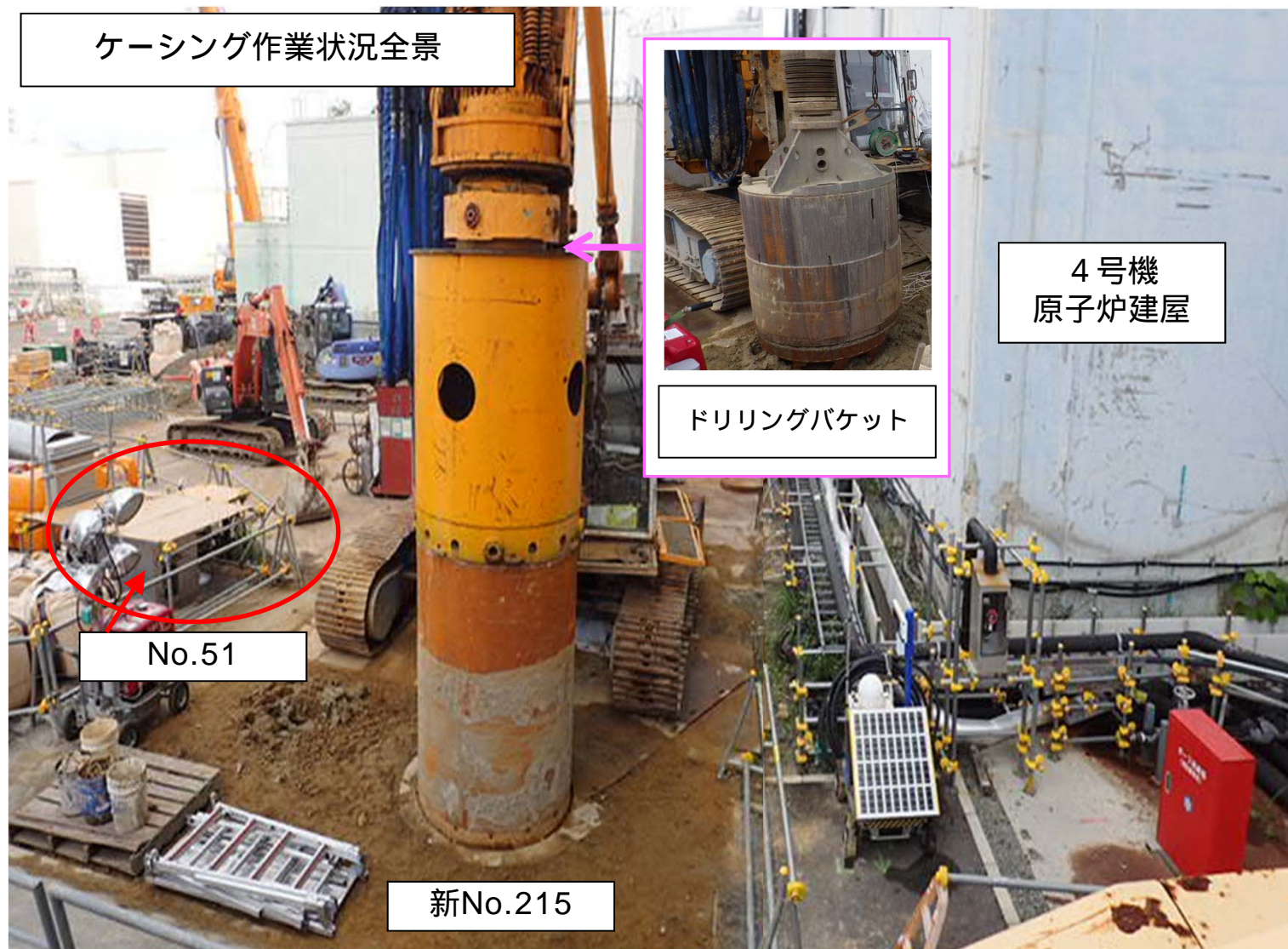
3・4号機周辺サブドレンピット配置図



1～4号機サブドレンピット総数：42
 ピット深さ：12m～16m

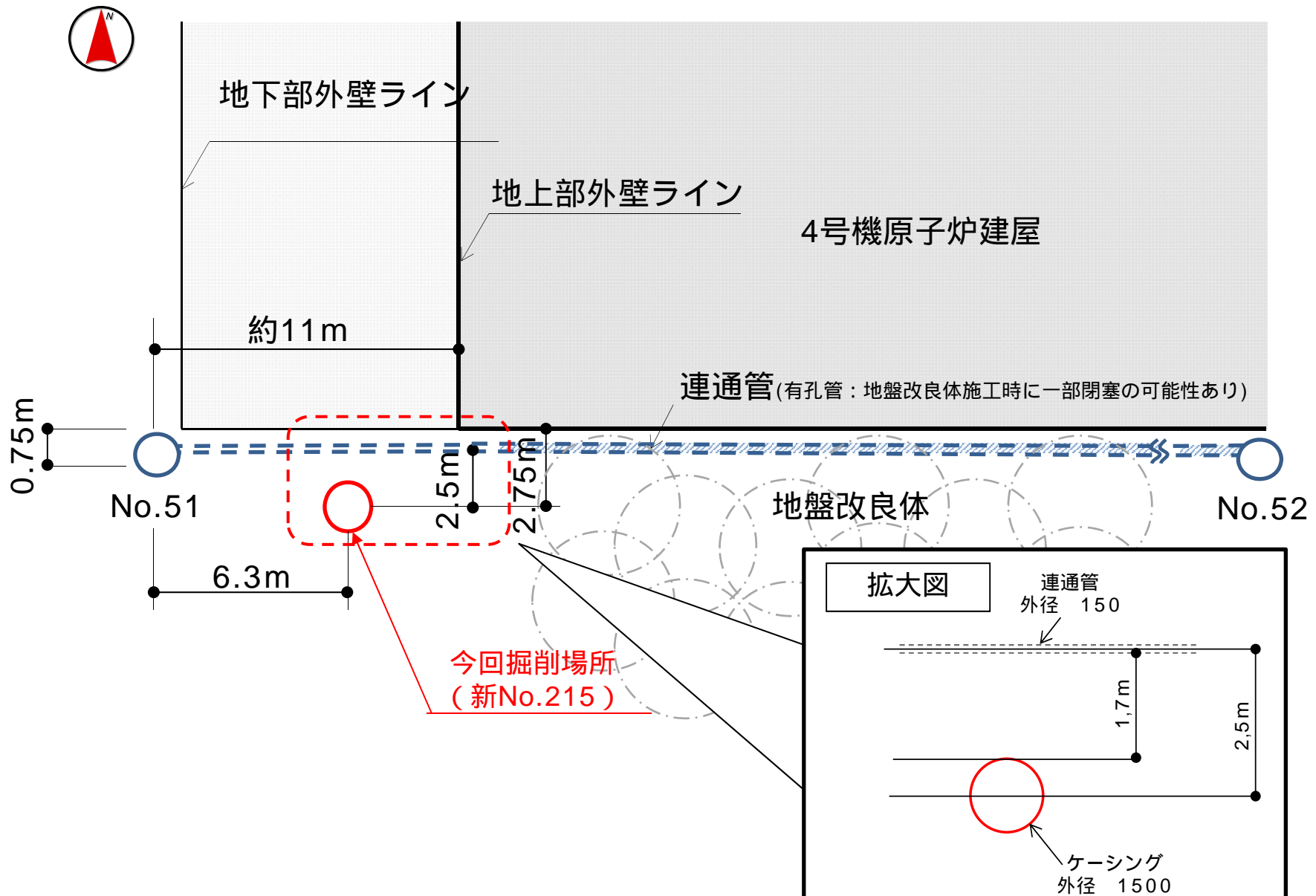
：水位確認、放射能濃度測定を実施したサブドレンピット

新No.215掘削作業状況

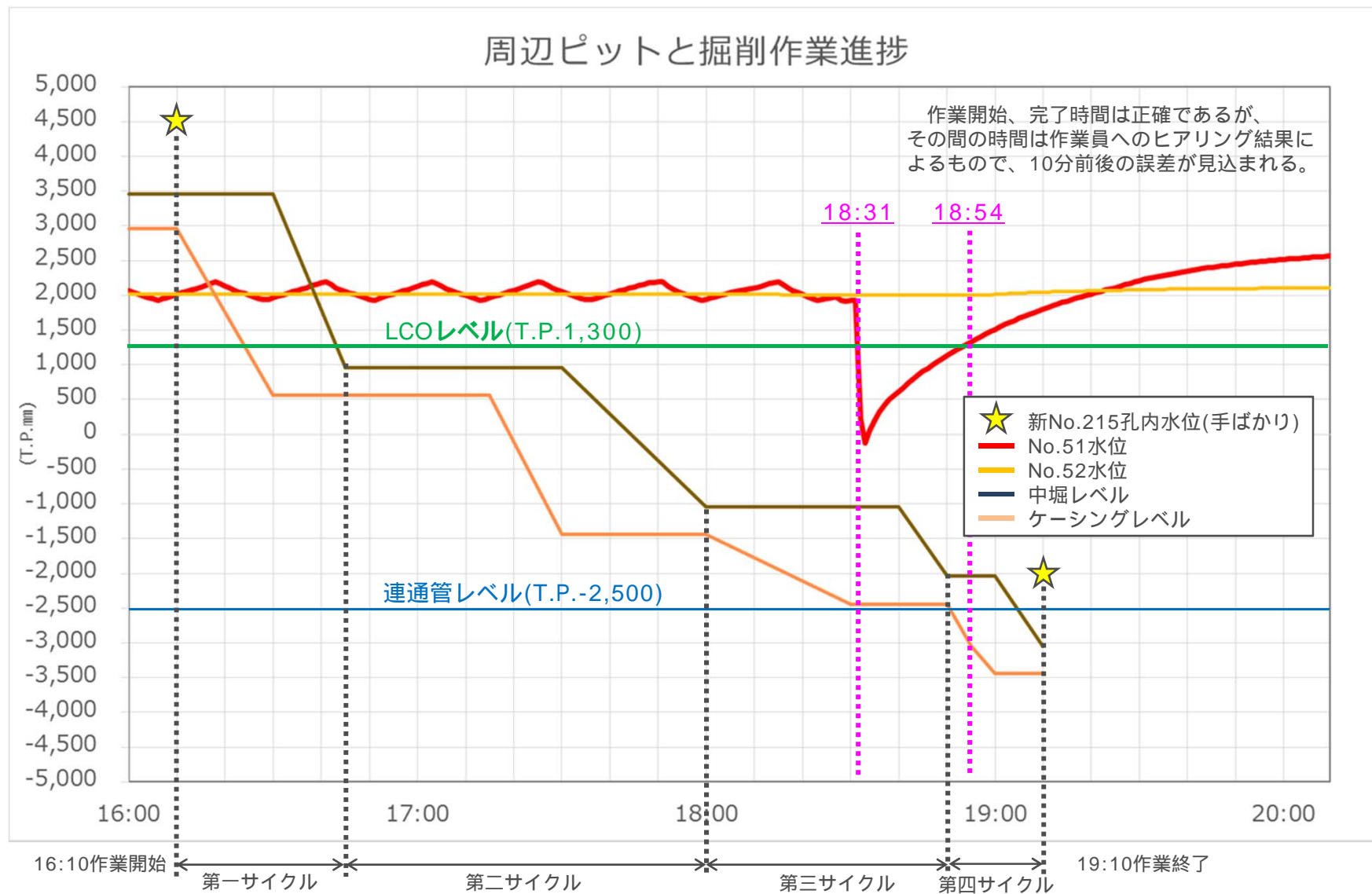


約2m毎に、ケーシング設置 ケーシング挿入 中掘り掘削を繰り返し、予定深度まで掘削。

サブドレンNo.51、新No.215掘削位置と周辺状況

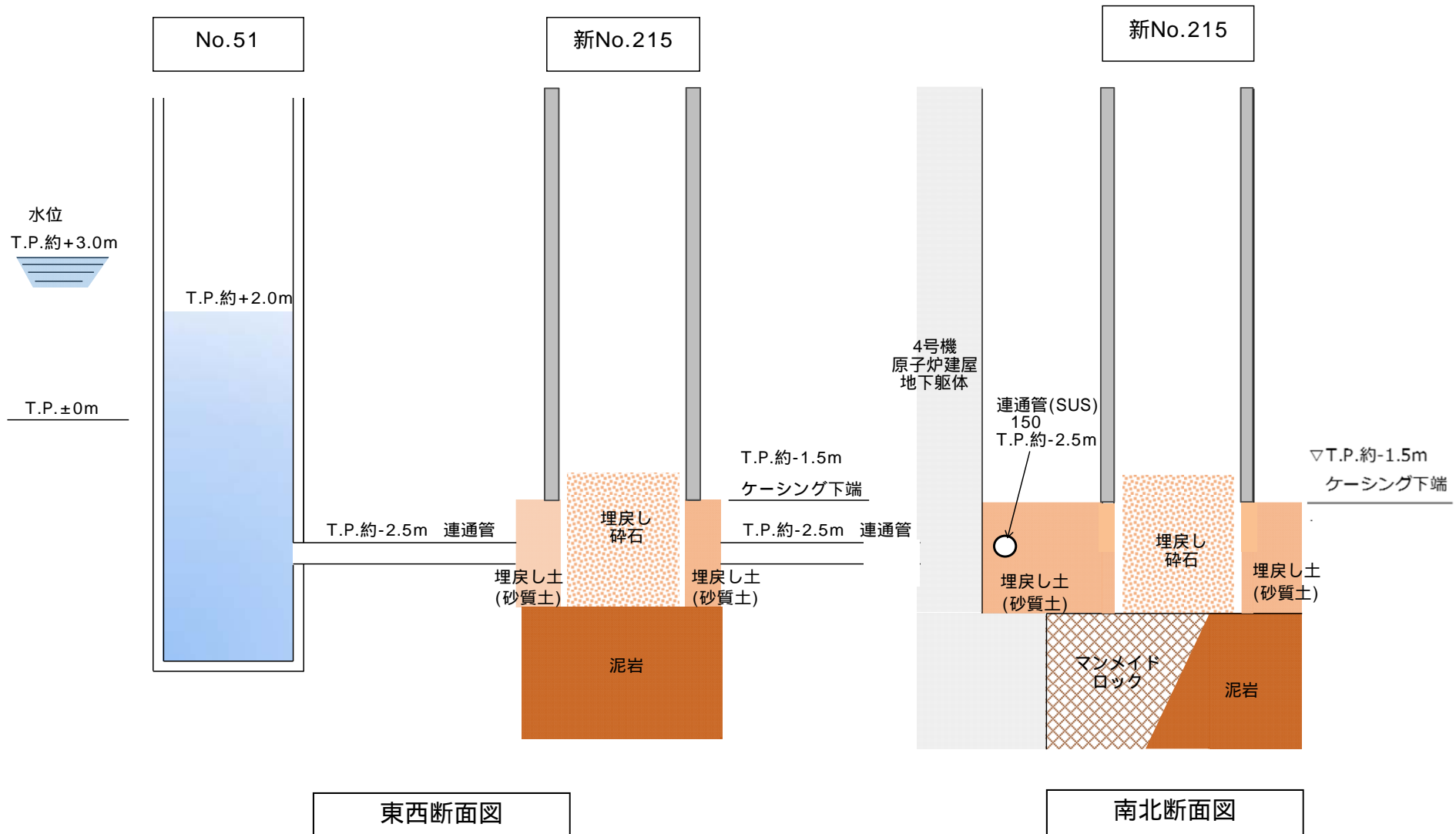


水位変動と作業の関係性



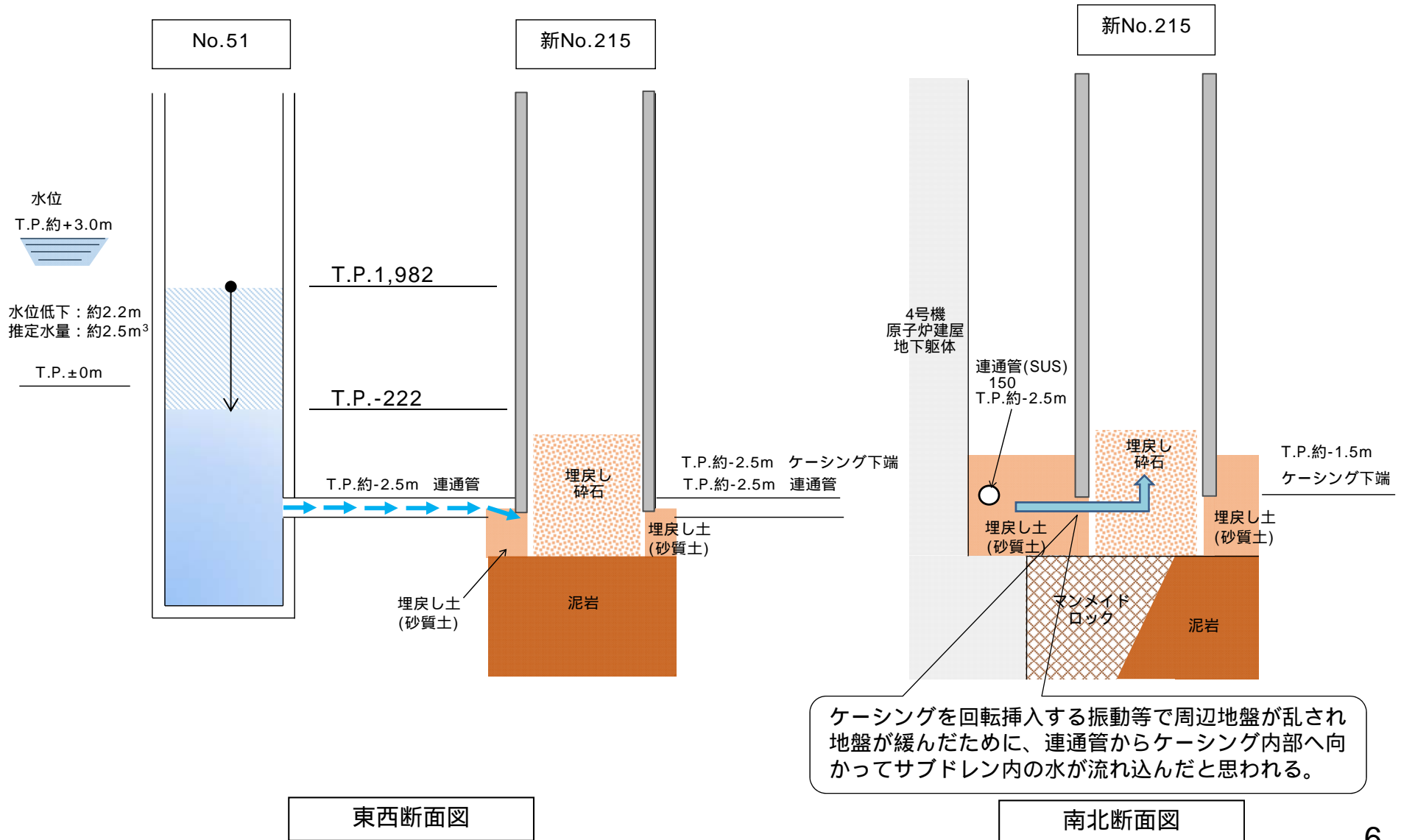
No.51 サブドレン水位低下のメカニズム (推定) TEPCO

8月2日 18時頃 水位が落ちる前



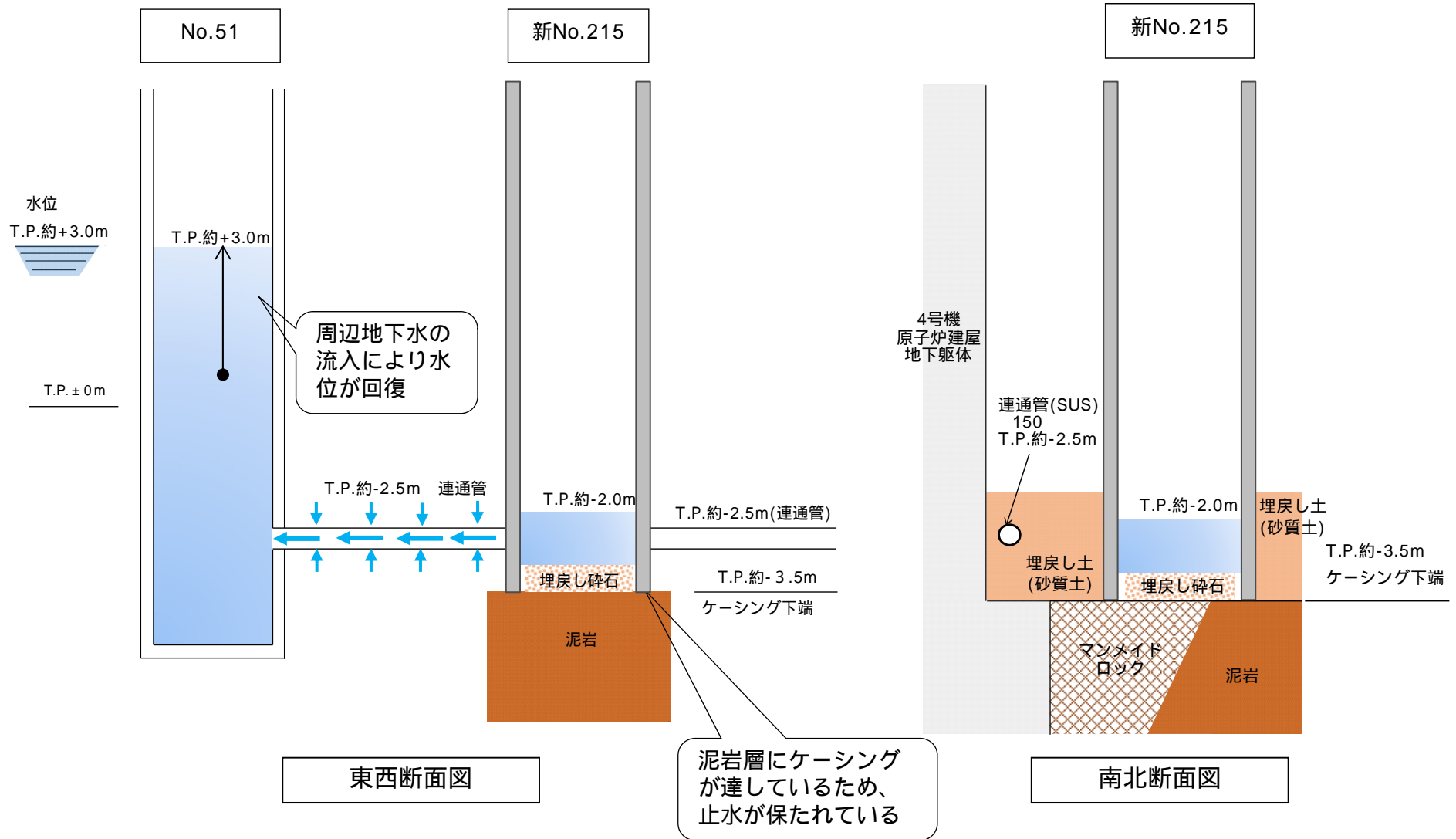
No.51 サブドレン水位低下のメカニズム (推定) TEPCO

8月2日 18時30分頃 水位が落ちた時の状況



No.51 サブドレン水位低下のメカニズム (推定) TEPCO

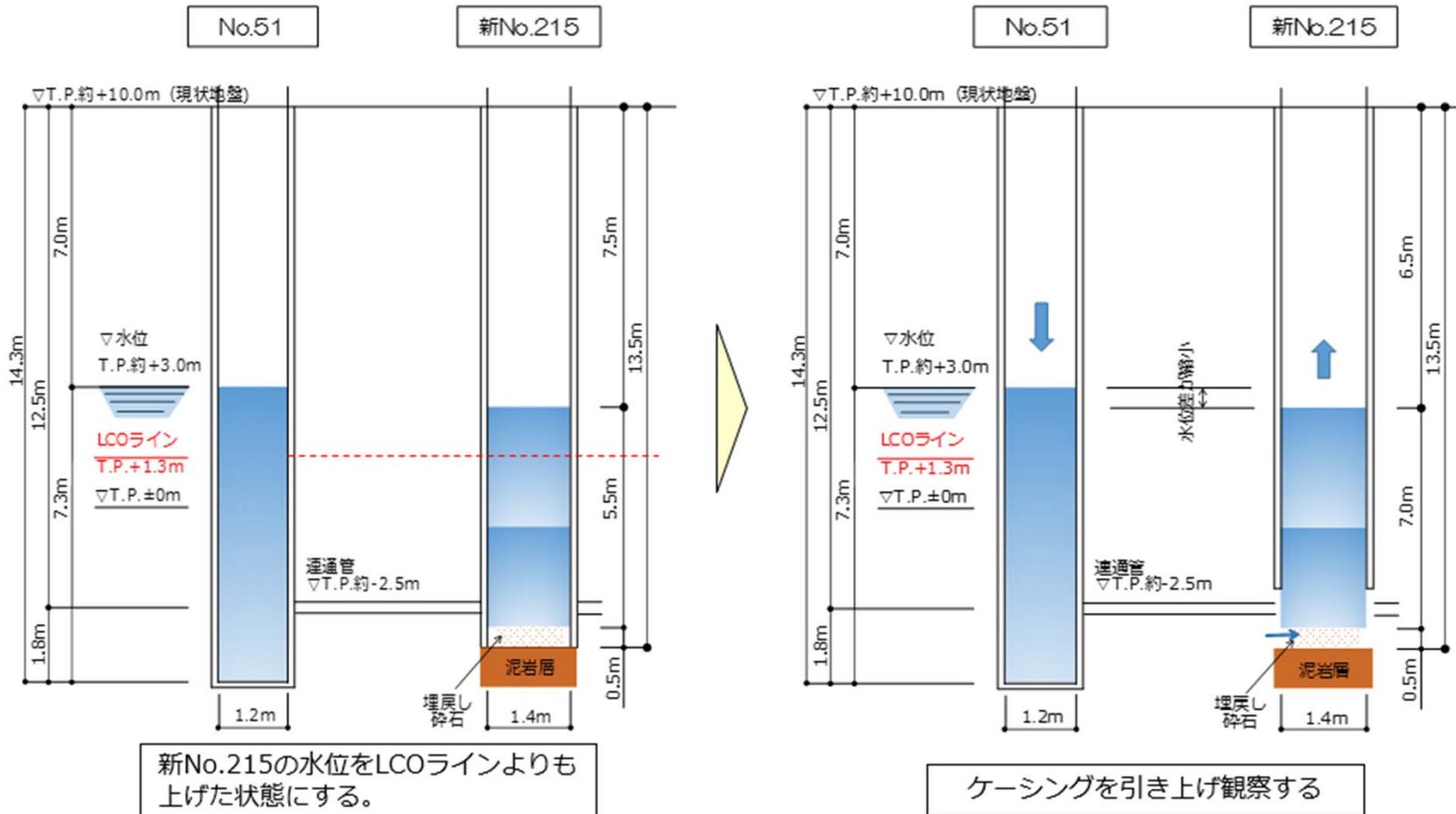
8月2日 19時15分頃 作業終了状況



連通性確認試験

< 日時 > 8月10日 16時頃 ~ (作業時間 : 約2 ~ 3時間)

< 内容 > 新No.215に挿入してあるケーシングを、8月2日の水位変動発生時と同じ高さ (連通管があるT.P. 約 - 2.5m) まで引き抜き、2つのサブドレン水位の変化を観測する。一時的にNo.51の水位が低下し、新No.215の水位が上昇すれば、連通性があると評価。
 なお、No.51の水位が建屋内滞留水の水位を下回ることのないよう、新No.215の水位をLCOラインよりも上げた状態で連通性確認試験を実施する。



新No.215の水位をLCOラインよりも上げた状態にする。

ケーシングを引き上げ観察する